

# 協議体の成果 見守りバッチづくりまでの経緯

## ◎協議体でのひとこま

認知症高齢者のひとり歩きの話から…

「家族がひとり歩きをしてしまったことがあり、服や持ち物に大きく名前を書いてしまうと本人もいい気分がしないため、おしゃれな手作りのブローチを作ってそこに名前を書いてつけられていた。ちょっとおしゃれだったら、つけるのも嫌じゃないかなと思って。」



構成員「それいいね！」

と話が盛り上がる



【構成員から見守りバッチについての提案や思いが出る】

ブローチみたいなら、つけてもらうのもお願いしやすい。もらう側もうれしいのでは？

(職員がつけていた缶バッチを見て…)

缶バッチでもいいんじゃない？缶バッチ作ってみたい！



くるみボタンは、比較的簡単だしかわいい。今度、見本を作ってくるよ！

認知症になっからつけなくても、元気なうちからつけられればいい。オシャレならつけられる。



トッピーがついているだけで、東郷町って分かる。地区名を入れたらオリジナルになるし、どこの地区かわかりやすい！

翌月以降の協議体で…

くるみボタンの試作品を持参された構成員。女性はおしゃれにお花の花びらをつけてみた。男性はシンプルにしてみた。



バッチの図面を書いてみた。

バッチの隅や裏に名前や電話番号が記入できるという。



インターネットで調べていたら、こんなデザインを見つけた。

認知症バージョンにしたらいいのでは？



# 協議体の成果 見守りバッチづくりまでの経緯

構成員

「いいじゃない！素敵！作りたい！」

と話が盛り上がる



皆に広めるにしても、構成員がどのくらいで制作できるのかなどを知らない、伝えられないので、みんなで試作を作ってみることに。

【缶バッチの試作】



缶バッチってどうやって作るの??  
と缶バッチマシンを使って、缶バッチづくりを皆で体験

【くるみぼたんの試作】

手芸が得意な構成員を中心に、試作品を全員が各々制作。



「ここの花びらはどうやってやるの？」  
「結構力があるから、力がない人はこの部分の作業はお手伝いがあるかもしれないね。」など感想が飛び交う。



協議体の雰囲気も、より和やかに♡



共に制作をしたことで、  
一体感が生まれ、  
構成員同士の仲が深まりました。

# 協議体の成果 見守りバッチづくり

強制ではなく、各々のペースで、  
できることをできる人ができる時に

## <白土老人クラブにて>

構成員が老人クラブの役員にバッチについて提案をした結果、老人クラブの会員に配布をしよう！ということに。どうせなら自分で作ったものをつけてもらおうとなり、缶バッチメーカーで1人ずつ缶バッチを作成してもらった。

欠席者には、各役員から配布がされた。



活用例



## <傍示本のサロンにて>

参加者にバッチを見せたら「素敵ね」という反応。

たまたまボッチャ大会を近くに控えており、手芸が得意な方がボッチャのチームで同じチーム同士の印として制作をしてくれ、ボッチャ大会ではチームでバッチを着用。



ボッチャ大会に出なかった人も「欲しい！」という方が相次ぎ、お誕生日にプレゼントとして配布をすることに決めて、お誕生日にプレゼントを継続。

現在は、多くの方がカバンにつけてくれている。

実際に認知症が進んできていると思われる方がいて、その方は必ず持ち歩く杖につけてある。そこには娘さんのケータイ番号が書かれており、そのことが皆で共有ができています。



## <西白土のサロンにて>

参加者にバッチを見せたら「素敵ね」「作り方知りたい！だけでもう力だなくて作るのはできないかもしれない」という反応。



サロンの運営者が参加者分手作りし、配布。

現在は、全員がカバンにつけてくれている。名前や電話番号を記入し、もしもの時に備えている。

## <部田山老人クラブにて>

茶話会や定例会というとなかなか出てこない方もいるが、バッチを作るなどアナウンスすると手芸が得意な方や久しく実施していない方などが参加してくれるのではないかと思惑中。



## <春木台のサロンにて>

サロンでまずはやってみようと思っっている。落ち着いたら声をかける予定。



<その他の地区では>

一般介護予防教室等で、バッチをつけている方を見かけることが増えた。

「口コミで広がっているのかな??」